

秋思（劉禹錫）

古より 秋に 逢うて 寂寥を 悲しむ

我は 言う 秋日 春朝に 勝ると

晴空 一鶴 雲を 排して 上る

便ち 詩情を引いて 碧霄に 到る

自古逢秋悲寂寥 我言秋日勝春朝  
晴空一鶴排雲上 便引詩情到碧霄

解説 秋の情趣をうたいあげた詩。

語釈 ※寂寥Ⅱもの静かでさびしいこと。 ※秋日Ⅱ秋の日ざしの輝くとき。 ※排雲Ⅱ雲を押し分ける。 ※便Ⅱするとすぐに。 ※詩情Ⅱ詩意、うたごころ。 ※碧霄Ⅱ碧空。 あおぞら。

通釈 昔から人は秋になると、その静かで寂しいことを悲しむが、私は秋の日なかの方が春の朝あしたに勝つていると言いたい。晴れ上がった秋空高く一羽の鶴が雲を押し分けて上ると、人の歌心誘って大空の上まで昇らしめるようである。